
IOSCO / SROCC研修セミナー及び中間会合の模様 について

平成 22 年 1 月 11 ~ 14 日

平成 22 年 1 月 11 ~ 14 日、英国ロンドン近郊において、IOSCO / SROCC (証券監督者国際機構 / 自主規制機関諮問委員会) (参考参照) の下記の会合が開催された。本協会からは、SROCC 議長である大久保専務理事ほかが出席した。概要は以下のとおり。

1. IOSCO / SROCC 研修セミナー (1 月 11 日 (月) ~ 13 日 (水))

本セミナーは、SROCC 及び新興市場委員会 (Emerging Markets Committee: EMC) のメンバー機関のスタッフを対象に、IOSCO の公式イベントとして、本協会、米国金融取引業規制機構 (FINRA)、国際資本市場協会 (ICMA) の共催により、英国ロンドン近郊レディングの ICMA センター他において開催された。

研修では、不公正取引の防止をメインテーマに、「インサイダー取引、フロント・ランニング等不公正取引の実態と特定の方法」、「売買管理・市場監視における当局・取引所・仲介業者の役割」についてパネル・ディスカッションを行ったほか、ICMA センターの研修施設を利用し、トレーディング・シミュレーションを行いながら不公正取引発見の実習を行った。このほか、「新興市場国における清算・決済システムのあり方」、「金融危機の要因となった商品」について、パネル・ディスカッション及び講義が行われた。

セミナーのスピーカーは、SROCC のメンバーである自主規制機関 (米国 FINRA、欧州 ICMA、本協会等)、IOSCO 新興市場委員会のメンバーであるインド、ブラジル等の規制当局及びレディング大学ヘンリー・ビジネススクールの教授が務めた。

セミナーには、22 カ国 (地域)¹ から 58 名が参加した。内訳は、アジア 27 名、中東 8 名、欧州 (含. 東欧、ロシア) 12 名、アフリカ 2 名、北米 3 名、中南米 6 名である。本協会からも、講師 1 名、研修生 4 名が参加した。

本セミナーは、SROCC が 2008 年 12 月のワシントンに続き開催する 2 回目の研修セミナーであったが、前回同様、講師、参加者ともレベルが高く、先進国・新興市場国の規制当局・自主規制機関のスタッフが活発な議論を展開した。参加者からは、証券市場の規制に関する重要なテーマをカバーするプログラムであり、非常に有意義であったとの評価を受けた。また、参加者間の交流も深まり、研修後の情報・意見交換のためのネットワークも形成された。さらに、共催機関として本協会への感謝も数多く寄せられ、本協会の国際的プレゼンスの向上にも寄与したものと考えられる。

¹ 参加国 (地域) は、日本、韓国、台湾、マレーシア、インドネシア、インド、トルコ、アラブ首長国連邦、英国、ベルギー、イタリア、チェコ、モンテネグロ、ポーランド、ロシア、エジプト、オマーン、ガーナ、カナダ、米国、ブラジル、コロンビアの 22 カ国 (地域)。

2. IOSCO / SROCC 中間会合 (1 月 14 日 (木))

SROCC は、上記研修セミナーの翌日に中間会合を開催した。

会合では、以下のとおり、ゲスト・スピーカーによる講演、ワーキング・グループによる討議、IOSCO 事務局からの報告、世界銀行との協議、その他メンバー間のディスカッションが行われた。なお、同会合の議長は、本協会大久保専務理事が務めた。

1) グローバルな規制改革の動向

ゲスト・スピーカーとして招いた欧州証券規制当局委員会 (CESR) 事務局長の Carlo Comporti 氏 (元イタリア証券委員会) から、欧州における証券規制関連の組織改編のほか、OTC デリバティブに関する規制 (透明性の向上、当局への報告のあり方) システム・リスクへの対応、空売り規制、格付け機関への規制強化、ダークプールや超高速取引に関する透明性の向上等現在の検討課題について、欧州における検討状況が説明された。同氏のプレゼンテーションに続き、メンバーとのディスカッションでは、自主規制機関を含めた規制機関に対する信頼の低下にどう対処するか、規制当局の政治家に対する説明責任のあり方等が議論された。

2) Ahead of The Curve Working Group

本 WG では、各国自主規制機関が、現在の検討課題及び今後対処が必要と見込まれる新商品・取引を紹介した。紹介された主な課題は以下のとおり。

米国 FINRA : ターゲット・デット・ファンド、生命保険買い取り契約及び生命保険証券化商品、バイイン手続の国際標準化 (株式市場を中心に、米国・欧州間で手続の標準化について検討を開始。)、インターネット・e メールによる勧誘に対する規制を検討中。

カナダ投資業規制機構 (IIROC) : ダークプール、ダイレクト・エレクトリック・アクセス、超高速取引、市場の分断と規制の裁定、高レバレッジ ETF、CFD、FX 取引等を検討中。

本協会 : 金融庁の「金融・資本市場に係る制度整備についての骨子 (案)」、債券市場におけるフェイル慣行の見直し、CFD 規制、証券・金融商品あっせん相談センター (NPO 法人) の設立等について説明。

ブラジル金融資本市場協会 (AMBIMA) : OTC デリバティブ規制、プライベート・エクイティ・ファンドへの自主規制導入等を検討中。

ロシア証券市場参加者協会 (NAUFOR) : 二つの主要取引所、自主規制機関が並存している状況と両取引所・自主規制機関の間での規制・取引システムに関する調和・統一化へ向けた動きにつき説明。

3) Regulatory Staff Training Working Group

本 WG では、直前に開催した研修セミナーの評価が行われ、今後も同セミナーを継続すること、次回はブラジルのメンバー (ANBIMA ほか) が共催し、リオデジャネイロで開催することが

合意された。また、次回研修のトピック(候補)として、以下の提案があった。

- ・システミック・リスクへの対応
- ・規制のエンフォースメント
- ・発行市場の規制
- ・集団投資スキーム
- ・仲介業者の規制

なお、台湾証券取引所より、次々回2011年のセミナーを共催したいとの意向が表明された。

4)IOSCOの5カ年戦略の策定及び「証券規制の目的と原則」の見直し

現在IOSCOでは、金融危機への対応で課題となった点も踏まえ、今後5カ年(2011～2015年)の戦略の策定及び「目的と原則」の見直しを進めている。今回会合では、IOSCO事務局のSenior Policy Advisorであるイザベル・パストール氏から現在の検討状況につき説明が行われた。「戦略」及び「目的と原則」については近々改正案を作成しIOSCOメンバーのコメントを求めた上、6月のモントリオールでのIOSCO年次総会で取りまとめる予定である。

5)証券市場の自主規制に関する世界銀行のスタディ

世界銀行では、今後の途上国への政策助言に活用する目的で、世界の証券市場における自主規制の役割・機能・特性について広範なスタディを進めている。今回会合には、世銀/国際金融公社資本市場開発局のアリソン・ハーウッド氏とクレメンテ・デルヴァーージェ氏が出席し、同スタディの概要を説明し、SROCCからの助言・情報提供を要請した。また、今後新興市場国への政策助言、技術支援にあたり、SROCCと協力して実施するプロジェクトを検討したいとの提案があった。

6)今後の会合予定

次回SROCC会合は、IOSCO年次総会の一環として、本年6月7日及び8日にカナダ モントリオールで開催すること、及び、次回中間会合は本年11月第二週を目途に、研修セミナーと同時にブラジル リオデジャネイロで開催することがアナウンスされた。

以 上

(参 考)

IOSCO及びSROCCの概要

・IOSCO(International Organization of Securities Commissions)の沿革

証券監督者国際機構。国際的な証券取引についての基準及び効果的な監視を確立すること等を目的に設立された国際組織。1974年に設立された米州証券監督者協会を母体とし、1980年代以降に欧州・アジア諸国の機関が加盟した。1986年のパリ総会において、現在のIOSCOという名称に改められた。我が国では、金融庁が普通会员として、証券取引等監視委員会、経済産業省及び農林水産省が準会員として、日本証券業協会、東京証券取引所、大阪証券取引所が協力会員として、それぞれ加盟している。

・SROCC (SRO Consultative Committee)の沿革

自主規制機関諮問委員会。1989年に設置され、IOSCOにおける各国の自主規制機関による意見・情報交換として機能している。同委員会では、現在、自主規制の役割、市場における問題の早期発見、自主規制機関のスタッフ研修等の課題に取り組んでいる。現在本協会大久保専務理事が議長を務めている。

・IOSCOの組織

